

議長(上田順康君)順番19、10番 霜竹君。

〔10番(霜竹俊憲君)登壇〕

10番(霜竹俊憲君)議長のお許しをいただきましたので、演壇より質問をいたします。

3月1日、新橋本市が誕生してはや3カ月。7万市民の夢と希望と不安と未知とが交差する中、華々しく合併しました。合併はしましたが、私は、この3カ月を振り返り見て幾つかの問題点を取り上げて、これからの市政を推進する上で速やかに対処していただく思いで、4項目について質問いたします。

まず、1点目は、補助金交付に関する各種団体の合併についてであります。

さて、補助金交付団体は、行政の推進する目的を実現するための公共的公益的性格を持った団体に対し資金援助を行うものとして補助金あるいは助成金を交付しますが、これに基づいて旧橋本市、旧高野口町の地域性の違いの団体も若干ありまじょうが、少なくとも同じ目的の団体については、果たして円滑、健全な合併統一がされているのか、各部にお伺いいたします。

ついては、補助金交付団体は、各部署にあっては数多くあり、とてもすべてとはいきませんので、2つの部にお問い合わせすることにしましたので、了解賜りたく、よろしく申し上げます。

2点目は、巡回コミュニティバス運行についてであります。

本年3月、合併に伴う市長選挙の際、木下市長は講演会活動の中、旧高野口町民を重点的にミニ集会の中で巡回バスの運行については力強く公約され、実現することを約束されました。高野口町役場が消える、市役所が遠

くなる、このような不便解消のためには巡回バスの利用によって住民サービスを行うと。

このことは山間地や公共施設などを結ぶ巡回バスの導入が広域的な連携を図り、効率的かつ利便性の高い高価が発揮されるものとして早期実現化に取り組むよう、強く要請します。なお、また、高野口町の立派な町有バスについての利用方法を早急に決めていただき、一日も早く運行されるよう、あわせて要請し、ご答弁をお願いします。

3点目はホテル建設誘致についてであります。

県立橋本体育館、橋本運動公園の建設に伴い、立派な施設で大会を開きたいと思う団体が多い中、とみにスポーツを通じて余暇の活動、健康と体力の増強等によって利用者、参加者が急増しております。これは、利用者が多ければ多いほど、飲食、宿泊、交通などの需要創出といった波及効果、経済効果が高くなることは当然のことと言えまじょう。

最近、特にスポーツを通じて地域の振興を図ろうとする自治体が増え、生涯スポーツの拡大に伴い、スポーツイベントを誘致することによって、地方都市のイメージアップにつながるものとして大きな期待を抱いております。

しかしながら、県立体育館や橋本運動公園、あるいは南馬場緑地公園等の立派な施設を利用しようと思っても、全国大会規模の催しは残念ながら開催できないのが現状の姿です。言うならば、橋本市には宿泊施設の伴わないことが最大の要因となっています。私は、企業誘致の中にぜひとも橋本市にホテル誘致を視野に積極的な行動をお願いすることを提案

します。もし企業誘致が夢と終わるならば、せめてもの研修所を兼ね備えた合宿的な施設の建設に向けて前向きな姿勢でご検討されるよう要望いたします。

これには公益施設の周辺整備事業の用地の活用、あるいは運動公園周辺はいかがなものかと思えます。これらの建設にはP F Iの民間資金を活用した社会資本整備事業を生かすことによって取り組むことも考えられます。

4点目は市の冠大会であります。

新橋本市に生まれ変わった現時点にあって、市の大会や催しに際し、今なお昨年までの大会回数に引き続いて開催され、また、開催しようとしております。合併によって新しい橋本市の意識が希薄と言わざるを得ません。各団体の企画立案される役員や事務局担当者の考えの切りかえが求められます。橋本市が行うあらゆる冠大会は、ゼロからの出発で心新たに前進することによって大会が意義あるものと思われま。

以上、演壇よりの質問を終わります。

議長（上田順康君）10番 霜竹君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

市長（木下善之君）10番 霜竹議員の一般質問にお答え申し上げます。

まず、ホテル誘致についてのおたただしでございますが、自治体の活力を評価する上で、従来の定住人口だけでなく、交流人口の重要性が近年指摘されてございます。人口減少時代に突入した今、定住人口の増加を前提とした地域政策の考え方を見直す必要がございます。道路をはじめとする交通網の整備による交流圏の拡大や、余暇時間の増大を踏まえ、さまざまな目的で地域を訪れる来訪者によって経済、生活、文化面などの活性化が図られ、都市の魅力を広く内外にアピールすることが

可能となってまいります。

働く人、通学する人、買い物や観光に来る人、イベントや行事に参加する人など、その内容は多種多様であります。また、運動公園の各施設を活用する上で利用者の宿泊施設、あるいは宿泊研修施設などがあれば、なお一層の有効活用が図られることも十分承知いたしてございます。

本市には、宿泊施設としては、公営施設としての国民宿舎をはじめ、民間施設として温泉施設に併設のホテルと若干の旅館がありますが、本格的なシティホテルがないのはご指摘のとおりでございます。これは、経済の合理性で働く民間資本にとって本市には需要が十分ではないのか、また、魅力的な観光資源に乏しいのか、その要因はさまざまであると推察いたしておるところでございます。

また、コンベンション機能などを備えたシティホテル、あるいは、宿泊に特化したビジネスホテルなどの立地は都市の魅力を高める機能の一つとして重要な施設であると考えております。

企業誘致とともにホテル誘致を進めてはどうかのおたただしですが、ホテル誘致に最適な土地確保の問題をはじめ、市内事業者との調整など、検討すべき事項が大変多くあると考えてございます。現状では、まずは企業誘致に取り組む中で、企業立地が進めば必ずと宿泊需要が高まり、結果として新たな民間資本進出の可能性が生じることを期待したいと考えてございます。

次に、宿泊研修所の建設とP F Iの活用についてお答えいたします。

議員ご指摘の広域ごみ処理施設周辺整備事業として宿泊研修所の建設は、少子化が進む中、団体生活の機会が少ない子どもの交流や、研修の場所としての利活用の考え方も大変必要かと思っております。

今後、市民に喜ばれるものをPFIの導入も含め総合的な見地から検討し、本年度において基本計画を作成していくこととしております。この基本計画を策定していく上での重要な参考意見とさせていただきたいと思えます。

次に、補助金交付団体についてどのように考えているのかとのおたがしでございますが、今後、旧市町において同様な組織、事業活動を実施している団体は、地域間格差の解消を図りながら、できるだけ早い時期に統一化を図ることが必要であると考えてございます。

また、地方自治法第232条の2に規定されている団体補助金の交付要件については、公益上必要ある場合に限って補助することができるかとされております。したがって、客観的に見て公益上必要があると考えられ、その事業内容が市にとってもメリットがあり、かつ成果が出ている場合は事業に見合った補助金に見直すとともに、成果が出ていない場合、または効果が低い場合は、補助金の趣旨に沿った対応、指導をすとか、補助金の削減あるいは廃止を検討するなど、より適正な補助金交付に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

なお、残余の件につきましては、担当参与よりお答えいたさせます。

議長（上田順康君）企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

企画部長（吉田長司君）4点目の市の冠大会についてお答えいたします。

各種大会等の催しについて、新橋本市となった今、第1回と冠してはいかがとのおたがしでございますが、大きなイベントの一つである紀の川祭と紀の川かっぱまつりを見ますと、紀の川祭は、紀の川祭実行委員会主催で毎年開催しておりますが、戦後の混乱期、沈

みがちなまちを活気づかせようと昭和23年から開催され、昭和30年の市政施行を経て、途中、数回の中止を乗り越え、開催を継続させてまいりました。また、市内外の各業者、有志、関係機関等の大きな協力のもと、歴史ある紀の川祭を継続してきた経緯もあり、本年度は第57回と冠し開催する予定だと伺っております。

また、紀の川かっぱまつりについても、町民主導の夏祭りを自らの知恵と力を結集して根づかせたいとの強い思いで平成10年から実施し、今年は第9回とされるようでございます。

どちらの祭りも、開催、継続にご尽力いただいてまいりました多くの皆さま方の並々ならぬご苦勞の賜と感謝いたしております。その他大会等催し物についても、その多くが任意団体の主催であり、それぞれに培ってきた歴史のあるものがたくさんございます。また、必ずしも第何回と銘打っているものではなく、平成何年度とされているものも多くございます。

新市となり、行財政改革を受けて催し物自体のあり方が見直され、ほかの催しと合同開催となるものや、主催組織が合併された催し物等については、主催組織に対し、新市で行われる事業との認識を新たにさせていただくようお願いしてまいりたいと考えております。

また、市主催の大会等につきましては、当然、新市の発足から数えられることとなりまますので、原則の再認識を徹底いたしたいと考えます。

いずれにいたしましても、各種催し物等により多くの市民にご参画、ご参加いただき、市民の一体感、連帯感を深めていただくことが肝要かと考えておりますので、ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

議長（上田順康君）総務部長。

〔総務部長（中山哲次君）登壇〕

総務部長（中山哲次君）次に、補助金等の整理合理化についての基本方針のおただしですが、旧市町において同様な組織、事業活動を実施している団体で新市において統一されていない団体は、速やかに統一することにより合併の効率化を進め、行政の責任領域や市民との役割分担に留意しつつ、補助金の整理合理化を進めていく必要があります。

具体的には、補助事業の終期設定、いわゆるサンセット方式の導入も検討し、今後の事業実績報告時に効果や成果などの内容をより一層審査の上、整理合理化を進めてまいります。

次に、コミュニティバスの運行についてお答えをさせていただきます。

巡回バスの運行につきましては、平成18年2月1日より橋本市民病院循環バスを東・西ルートについて実施いたしております。議員おただしの巡回コミュニティバスの運行計画につきましては、現行の東・西ルートに加え、高野口ルートについて関係機関及びコミュニティバス検討委員会において、現在、検討、協議をしているところでございます。

実施時期につきましては、できるだけ早い時期に運行できるよう、協議を進めてまいります。

次に、運行の回数につきましては、コースの設定により運行時間の問題もありますが、左回り、右回り、計4回を考えています。また、停留場所につきましては、地元及び警察署協議等により確定することになりますので、現時点におきましては確定はいたしてございません。

また、料金につきましては、現在運行の大人200円、中学生以下100円と考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

次に、旧高野口町所有バスの活用方法につ

いてでございますが、現在、橋本市所有のバスについては、旧橋本市マイクロバス及び旧高野口町バスの2台となっておりますが、合併後のバスの運行につきましては、経費の関係や運転者の委託先の関係もあり、基本的には旧市のマイクロバスで対応しており、現在のところ、旧町のバスについては運行を休止している状態ではありますが、今後、バスの活用についての基本的な考え方といたしましては、維持管理経費の問題もございますので、運転手につきましては1人とし、乗車人員も考慮した中で、近距離の場合は旧橋本市のマイクロバス、遠距離の場合は旧高野口町のバスを運行するよう、1年程度の試行期間を設け、進めてまいりたいと思います。

また、運用面につきましては、市有バスとして法的に抵触しない範囲での活用を考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（上田順康君）健康福祉部長。

〔健康福祉部長（上田敬二君）登壇〕

健康福祉部長（上田敬二君）霜竹議員のご質問にお答えいたします。

新橋本市発足に伴い、市の行政に係る各種団体についても、一体化を図るべく双方の役員が集まって会則をはじめ意見交換を行い、調整を図ってまいりました。

ご質問の遺族会につきましては3月31日に、民生児童委員会については6月3日に、また更生保護女性会については4月25日に、それぞれ旧市町の会員参加のもと、設立総会を開催して会則や18年度の事業計画及び予算を審議し、承認のもと、現在、活動を行っております。

また、身体障害者連盟につきましては、両市町の社会福祉協議会が8月1日合併の運びとなったので、それに合わせて事務局も同日の合併とし、現在、設立総会に向けて準備を進めているところでございます。

以上です。

議長（上田順康君）教育次長。

〔教育次長（岸田茂利君）登壇〕

教育次長（岸田茂利君）教育委員会関係でご質問のスポーツ少年団、女性会議、文化協会の合併につきまして、昨年来、両市町の各団体の役員で合同会議を開催しまして、規約、事業等を協議してきました。その結果、各団体とも双方合意により合併に至りました。

おただしの女性会議につきましては4月27日に、また文化協会は6月2日と、議員がご参加いただいております体育協会につきましても6月9日に無事総会が開催されました。またスポーツ少年団につきましても、6月中に総会を開催する予定でございます。

以上です。

議長（上田順康君）10番 霜竹君、再質問ありますか。

10番 霜竹君。

10番（霜竹俊憲君）答弁をいただいて感謝しておりますけれども、特に、これから4つの問題について、まず補助金の問題からお伺いしたいと思います。

先ほど健康福祉部のほうから、一応、合併されているということの答弁をいただいたわけですが、身体障害者連盟については8月1日の社協の立ち上がりによってつくるといこと、それは結構ですが、この遺族会とか民生児童委員会、あるいは更生保護女性会、これらについて合併されたと聞いておりますけれども、先ほど教育委員会から、一応、両者の会議によって合意されたと聞いていますけれども、例えば健康福祉部の中での高野口町、橋本市の各団体の役員同士がいわゆる打ち合わせ会議というのか、そういったものをもって会則とか、あるいは活動方針とか、あるいは役員構成とか、そういったことの議論を交わした上での合意に至ったものかをお伺

いしたいと思いますけども。

議長（上田順康君）健康福祉部長。

健康福祉部長（上田敬二君）はい。各団体が自主運営されておりますので、会議の内容等については承知しておりませんが、各団体からこれまでの経過についての若干資料をいただいておりますので、その中から報告させていただきます。

遺族会については、平成17年10月24日に合併についての会議を持っております。それが1回目です。2回目につきましても、合同の役員会を開催されまして、平成17年11月11日に会議を持っております。その中で合併後の会則とか、18年度の事業計画案、18年度の予算案について審議され、合意に至っていると聞いております。

それと、民生児童委員協議会につきましては、平成17年11月7日に高野口町の役場におきまして合併の意思確認をしております。そこで協議会の会則、規約について調整が図られ、今後の運営についても意見交換があったと聞いております。

続いて、平成18年5月11日に橋本市で2回目の会議を持ちまして、18年度の民生協議会設立総会全般について最後の合意、協議があった、そういうふう聞いております。

そして、更生保護女性会につきましても、17年9月29日、準備委員会という形で開かれて、組織体制とか名称、あるいは行事、予算について協議されております。あわせて役員選出の方法とか、総会に日時についても協議されたと聞いております。

さらに、17年10月11日に新しい事務所をどこにするかですとか、そういうことを市のほうへ要望がありました。それと、18年1月31日には、規約の確認ですとか、18年度の予算、あるいは事業計画案、総会の会場の決定とか、そういう話し合いが持たれております。

そして、18年3月7日には第3回の準備会が開かれて、最終的な総会の日取り等が決められております。それと、4月18日にもさらに第4回の準備会が開かれて、最終的な打ち合わせがされております。

それと、身体障害者連盟なんですけれども、これにつきましては、本年の4月5日に初顔合わせをしております。そこで合併の期日について決められております。それと、第2回目につきましては、4月25日、合併期日を8月1日にすると。新連盟の役員体制案につきましても協議されております。あわせて、部長、副会長についても、このときに決められております。

そういうような報告を受けております。

議長（上田順康君）10番 霜竹君。

10番（霜竹俊憲君）今、きめの細かいご説明をいただいて、非常に事務局の苦勞に対して感謝する次第でございますけれども、いずれにしても、今後は市の行政に対する公益のために推進中で円滑な活動を期待して、この件については、一応終わりたいと思います。

それから、続いて巡回バスの運行についてでございますが、巡回バスの運行の予算が、見ますと2,642万9,000円ということで、1人当たり3万8,570円の費用を費やして住民サービスを行うわけですが、これら運行は、された場合は愛されて、喜ばれて、そしてまた親しまれる、こういった利便性の高い効果を希望するわけですが、そこで、当然、これは民間委託として理解よろしいんでしょうか、いかがなものか、お伺いします。

議長（上田順康君）総務部長。

総務部長（中山哲次君）お答えさせていただきます。

高野口ルートにつきましても、現在、橋本を走っております同じ経営方式をとらせていただきたいと思いますということで、バス会社のほうへ

委託させていただきます。

議長（上田順康君）10番 霜竹君。

10番（霜竹俊憲君）先ほど答弁の中でコミュニティバス検討委員会のメンバーの選考、そういう委員会の話が出ましたけども、どのような基準で選出されたのか、また選出されたならば、そのメンバーはどのような人々であったか、お知らせいただきたいと思っておりますけども。

議長（上田順康君）総務部長。

総務部長（中山哲次君）基本的には橋本コースを決定させていただくときのコミュニティバス検討委員会のメンバーさん方、各種団体ということで、ちなみに一例を申し上げますと、社会福祉協議会の代表の方々、老人クラブ連合会の代表の方々、身体障害者連盟の代表の方々、区長連合会代表の方々、それから女性会議代表、民生委員、児童委員代表の方々が10名でございます。それから、橋本市議会からは2名の議員にお願いしております。市のほうからは3名ということで、現在、構成させていただいております。先日、第1回目の検討委員会を開催させていただいたということでございます。

議長（上田順康君）10番 霜竹君。

10番（霜竹俊憲君）今、構成メンバーがされました。その中で、僕の思いと似た形というか、ということは、私は、この選出にあたっては、地域の声を十分反映するためには地域の利用する立場の人を選考してほしいという思いです。

それと、やはり、先ほど老人会とか民生委員とか、いろいろそういった方がおりますけれども、そういう中での、特に老人層、それが車に乗れないような婦人層を対象に人を選んでいただいていたなという思いだったんですけども、若干、それに似たようなメンバーですので、一応、了解したいと思いま

す。

それから、このバスについては、高野口、これから運行するわけですが、時期は一日も早くということの中で、当然、試行錯誤というのか、あるいは、いろいろやってみただ中で問題点もあろうと思います。そういうことについては、例えば、今、橋本が取り組んでいますけれども、そういった問題点は速やかに市民にPRを徹底して、利用度の高まる、みんなに親しまれるような状況をつくるためにはPRというのか、こういうバスがどこにとまって、どこの時間にと、そういったことも含めて十分、速やかな情報をお願いしたいなという要望でございます。

それでは、一応、巡回バスのことについては終わらして、次にホテル誘致についてでございます。

この問題については、先ほど市長さんからも詳しくご説明いただきましたけれども、実は、これについて私は体験談というか、実際に自分があつたことを申し上げて、実際にそのホテルの必要性を理解していただければいいんじゃないかと思えます。

実は、平成11年10月、私たち県のソフトボール協会という組織がございますが、それが橋本市のすばらしい施設の魅力にひかれて全国大会を開催しました。大会名は第7回全日本実年ソフトボール大会でございます。その際には、本日出席されております仲経済部長、あるいはまた高崎農業委員会事務局長にも当時、いろいろお世話になりました。そういったご協力いただいて、北は北海道から南は沖縄まで48チーム1,200名の参加のもと、県立体育館、橋本運動公園、南馬場緑地広場、向副紀の川グラウンド等を利用して盛大に開催したわけです。

また、平成15年9月には第3回日本体育協会主催の日本マスターズ女子ソフトボール競

技を会場として同じ場所で開催しました。これには議会事務局の栗林さんにもお世話いただきました。

これら、一応、開催したわけですが、宿泊が現時点で橋本では紀伊見荘で、役員だけ40名が泊まるのが精いっぱいございました。他の選手は、高野山、それから五條市、岩出町、和歌山市、河内長野市等で宿泊しなければなりません。大会をする我々の立場としては残念無念の思いで、せめて選手の半数でも宿泊できる施設があればなというように思っていたのでございます。

こういう中で、最近特にスポーツ少年団とか中学校、あるいは高等学校、それからクラブ活動、そういった交流試合とか強化試合とか親睦大会がこの橋本市の立派な施設を利用して非常に盛んに開かれております。こういう現実を鑑みて、特に学校関係が多いので、一応、このことについて教育長はホテル誘致、あるいは合宿所的なものについてどのような思いかをお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

議長（上田順康君）教育長。

教育長（森本國昭君）議員さんのおっしゃるのは私も同感でございます。私も、スポーツだけではなく、先日、近畿都市教育長会を和歌山県が当番で、和歌山県のどこにするかということいろいろ話し合いをしたんですが、どこともはっきりした返事をしませんので、橋本市の名を売るのも大事ですし、私がやりますということで近畿の合併等ございまして、今、105の市がございまして、その105も来なかったんですが、しかし、橋本市にもホテルがございませぬし、世界遺産に登録された高野町がございましたので、高野の普賢院のお寺をお借りいたしまして、職員の協力を得て終わらせていただいたわけでございます。

ただ、市長の答弁がありましたように、現状では大変難しいということもわかりますし、今後、橋本市、企業誘致等いろいろ頑張りまして、そういうふうな橋本市に一日も早くなれることを私も思っております。そういうことで、本当に確かにホテル等がないのは寂しい思いでございます。

以上でございます。

議長（上田順康君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

市長（木下善之君）時間の関係で一言だけ申し上げておきますが、このことは、私も昔そっちへ座っておった時分から大分熱を上げてきたんですが、今日に至ってなかなか難しいのが事実であります。

基本的には先ほど答弁させていただいたことでございますけれども、やはり、南には霊峰高野山を控えておるし、北には金剛・葛城・岩湧山系の国定公園、そういう中にありますすばらしい地域やということで、ぜひともということで、先刻も高野口を含めた建設業界の役員の方々に、「あんたら建築屋もおるんでしょ。専門やから共同企業体で建ててくださいよ」と頭を5遍ほど下げました。その結果待ちでありますけれども、南海電鉄とも過去に話し合いをさせていただいたこともございますけれども、用地はどこか市内に、高野口も含めてたくさんありますから、川の端のほうのところへぜひとも皆さんのお力を借りて、民間活力でひとつお力添えをお願いします。

議長（上田順康君）10番 霜竹君。

10番（霜竹俊憲君）市長から取り組みと云ってはなんですけど、非常にありがたいご答弁というのか、いただきまして、ありがとうございます。

実は、高野山に泊まったことなんですけど、当然、高野山に泊まったら、はじめは全国から

来る人は一応観光ということで期待をもって、我々もしたんですけれど、これは南海橋本交通に中に入っていたんですけれども、1日だけ泊まってもらいました、3日間の予定が。ということは、行きしなで一度選手がダウンして、帰りの下りは酔うてしもうて試合にならん状態です。こんなことではやっぱり難しいので。まだ観光だったらいいんですけども。

だから、朝6時半ごろ高野山から下りてきて、橋本に7時半ごろに着いたんですけれども、選手が皆ダウンして酔うて、とにかく試合にならんと。時間をちょっとずらした、そういういきさつもありますので、これはやっぱり高野山では難しいなと思います。

それから、先ほど市長がおっしゃった建設業界については、名前を申し上げて失礼ですけども、今西さんという方からも電話いただきまして、建設業界も頑張っているの、どうぞ議員さん、頑張ってくれということの励ましの言葉をいただきましたので、これをつけ加えておきます。

それで、実は、このことに関して私、県下のラブホテル以外のホテルの数を調べました。ちなみに、和歌山市が22軒、田辺市で11軒、新宮市で6軒、御坊市で4軒、海南市が2軒、ほか有田市・岩出市が1軒、こういったホテルがあって、市の中で橋本市がないというのは寂しい思いでございます。そういうことで、今後の市の、市長をはじめ幹部の方々の活発な取り組みをいただいて頑張ってもらいたいという思いでございます。どうぞその点をお願いします。

次に、これと同じことなんですけども、地域活性化交流施設整備事業についての宿泊所、いわゆる施設を利用しての建設の事業化についてなんですけども、私、このことについて、先般、県立体育館を訪れて、利用状況についている



いろと伺いました。その中で、利用を申し込む際には、特に大学のクラブ、あるいは競技団体、企業のスポーツクラブ等からは宿泊施設の有無が問われて、現状を説明しますと申込者からは敬遠されるケースが多々あるそうです。利用面では大きなハンデを背負っておるそうでございます。せめて橋本市に宿泊施設が、あるいは合宿できるような施設があれば、利用拡大につながるものだと話されております。

そこで、地域活性化事業として宿泊研修所の事業化をしてはどうかという件ですが、これと一体化した中で、この事業化を一環とする中で、基本計画を提案に織り込んだ方向で前向きに対応してほしいという要請ですが、当局の考えを伺います。

議長（上田順康君）広域ごみ対策室長。

広域ごみ対策室長（山本重男君）この周辺整備事業の一環といたしまして、地域活性化交流施設を整備するという事業がございます。これにつきましては、平成18年度に事業基本計画を立てていくことになっております。

今、市長からもありましたように、少子化が進む中、こういう施設を建て、団体生活の機会が少ない子どもの学習の場、それから、県立橋本体育館を有効利用するための場としても考えられます。また、この基本計画を立てていく上で、数多くの方々の意見を聞かせていただきまして、よりよき施設の建設ができるように努めてまいりたいと、このように思っております。これにつきましては平成18年度に基本計画を立てさせていただくことになっております。

議長（上田順康君）10番 霜竹君。

10番（霜竹俊憲君）今の室長の説明で前向きに取り組んでくださるということを特に要請して、この問題についてはとりあえず提案だけ申し上げて、今後、前向きな検討でよろ

しくお願い申し上げます。

次に、最後の冠大会のことについてですが、先ほど、これについて企画部長がおっしゃった紀の川祭とかかっぱまつりは、全然僕はそういうことは視野にございません。当然、これは町民から下から盛り上がった、実行委員会を立ち上げた中での大会ですので、市はある程度協力するけども、主体はやっぱり町民ということで、かっぱまつり、そうなんですけども、これについては何ら、第80回であろうが70回であろうが、異論はない。ただ、橋本市という名前がつく冠については、当然、私は、その冠大会には第1回という揮毫をつけてほしいわけです。

この問題については2つの観点から質問したいと思います。実は、なぜこういうことかということ、橋本市の市の名前がたまたま橋本市でいいのでないかという合併協議会で決定したようなことです。このことについては最善の結果で、橋本市については僕は名前には異存はないし、歓迎しております。ただ、言いたいのは、従来の橋本市名を継承したものであって、もしこれが仮に紀北市とかいう名前に変わっていたならば、当然、すべては紀北市第1回となっていると思います。それがお隣の紀の川市が、中村市長に聞きますと、紀の川市の大会はすべて第1回と。これは当然です。橋本市もやはり、新市に変われば第1回というんですけど。ただ名前が橋本市だというために。それにしても橋本紀の川祭は当然のことだという認識でおりますので、この点については一応ご理解いただいた上で、特によろしくご了解いただきたいと思います。

それと、なぜこういうことを申し上げますと、もう一点は、私たちの木下市長は初代市長として迎え、私たちを執行し、このことは市の広報でも初代市長とあいさつ文でもうたっております。本来ならば、昭和30年の市長

の吉田六右衛門さんから始まって、2代目の小林さん、3代目の向井さん、4代目の三浦さん、5代目の塙坂さん、6代目の北村さん、7代目が木下市長です。これで市がかわっていなかったならば7代目で現時点でも続きますけども、新市になったので初代ということに切りかわったわけです。そういうことを考えた場合は、第1回という名がやはり当然だという僕の認識であり、また、それが当然だという解釈で冠大会を皆さんに訴えて、何とかそれを実行していただきたいなという思いでございます。

ちなみに悪い例を申し上げます。この間、5月30日、健康福祉部になりますけども、老人の総会がございました。これは橋本市と高野口町が一体化された総会です。その中で事業計画が、例えば第73回ゲートボール大会会長杯、それから11月には74回議長杯ゲートボール大会。70何回とって、これじゃ、やっぱり高野口町の老人さんは違和感を感じて抵抗もあろうかと思えます。

やはり新市になった場合、第1回から迎えるのが当然という、そういうことで、これは一例ですけれども、その結果は、この間、体育協会では、橋本マラソン、これは第10回ですけども、この間、第1回という名目のもとに実行委員会を開きました。こういうことが健全な姿ということを認識されて、ひとつ関係当局にはそういうことの指導をお願いして、徹底してほしいなという要望ですので、この件について、どなたでも結構ですので、ご答弁いただきたいと思えます。

議長（上田順康君）企画部長。

企画部長（吉田長司君）私、答弁させていただきますように、市の主催の大会につきましては、当然、新市でございますので、第1回ということになってこようかと思えます。

同じような話になりますけども、実行委員

会形式につきましては、歴史もありますので、それは継承していくことも多いかと思えます。それで、具体的な催しなんか紹介させていただきますと、農林業祭、商工祭については、今まだ話し合い中で決定してございません。それから、市民総合体育大会につきましては、これは文化協会が合併してしまっていて、今、話し合いをしていますけども、規約については新規のものになってございますので、当然、第1回の方向で話し合いされているものと思えます。

それと、橋本マラソンにつきましては、今、議員言われましたように、第10回が今回、第1回ということになるようでございます。名前につきましては、わかりませんが、そういう形で第1回ということになるように聞いてございます。それから、市民総体でございますけども、これは主催が橋本市と教育委員会と体育協会でございますけど、体育協会が合併してございます。そういう中で、理事会では第1回ということに決まっております、6月上旬ということで、もう決まっているかわかりませんが、第1回という方向で行っているようでございます。成人式なんかについては何年度で冠はついてございませぬので、参考程度に大きな大会を言いますと、そういうことになってございます。

議長（上田順康君）10番 霜竹君。

10番（霜竹俊憲君）最後に企画部長から総合的なご答弁をいただいて、冠大会については概ね理解していただいたものという解釈で、これにて私の一般質問を終わりたいと思えます。ありがとうございました。

議長（上田順康君）これをもって、10番 霜竹君の一般質問は終わりました。

この際、11時10分まで休憩いたします。

（午前10時58分 休憩）